

2024(令和6)年度 第2回 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪
生成 AI 活用の基礎とプラクティス
開催報告

日 時: 2025(令和7)年1月15日(水)18:00~19:30
会 場: キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)
講 師: 森木 銀河氏(九州大学 IR 室 学術推進専門員)
司 会 進 行: 佐藤 浩輔氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員/大阪体育大学 庶務部
学長室担当)
申 込 者 数: 17 大学 33 名(うち会員外1大学1名)
参 加 者 数: 15 大学 27 名(会員外なし)
実 施 結 果: 大学コンソーシアム大阪 HP の「参加者アンケート」参照
企 画・運 営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

1. 開催概要

初心者からある程度ของผู้使用者までを対象とし、生成 AI の実践的な学びの場として開催する。ChatGPT 等の生成 AI ツールの基本から、具体的な活用方法までを知識として網羅し、サービスの活用例や他大学の実践事例、そしてすでに成果を上げている先進的な取り組みについても知る機会とする。また、効果的なプロンプトの作り方や、AI との上手な対話方法についても具体的に実践しながら学ぶことで、業務に生成 AI の力をプラスできるようになることを目指す。

2. 開会挨拶

サロン・ド・大学コンソーシアム大阪は、大学におけるさまざまな課題をテーマとして開催している。今回のテーマである生成 AI は、試行錯誤を重ねながら大きな進歩を遂げつつあるが、本日はその基本を理解し、大学教職員がそれをどのように業務に活用することができるのかを具体的に学ぶ予定である。また、参加者同士もぜひ積極的に情報交換し、交流を深めてほしい。



司会・開会挨拶: 佐藤委員

3. 講義概要

※講義中は ChatGPT 等を用いた実践を交えながら、知見と学びを深めた。

<AI について>

「AI」は一般的には人工知能に人間と同様の知識を実現させようという取り組みやその技術のことを指す。その研究は 1950 年代より重ねられており、近年急に始まったものではない。日常生活においても身近なところで活用されており、例えば迷惑メールがゴミ箱に勝手に入っているのは機械学習によりトレーニングされた AI が働くからであるし、商品の売り上げ予測等にも使用されている。大学業界でも、佐賀大学が 2018 年 7 月に働き方改革の一環として、国内の大学として初めて「AI チャットボット」を導入する等、活用の動きが広がっている。



講師: 森木 銀河氏

<生成 AI について>

2022 年にリリースされた ChatGPT をはじめとする「生成 AI」は、文章、画像、プログラム等を生成できる AI モデルに基づく AI の総称であるが、汎用的で高性能であること、そして誰でも気軽に使えることに大きな意味がある。生成物は、過去に学習したデータを基にした推論(または予測)から生成されるが、そのために開発者は大量の Web 上のデータや文書等を学習させ、対話ができるように調整(アライメント)している。Google 検索等との相違は、「前段の対話を踏まえて指示を重ねることができる」、「指示に追従した生成物を出してくれる」等が大きなものであろう。なお、この「指示」のことをプロンプトと呼んでいる。

<生成 AI の種類について>

生成 AI の種類は多数あるが、主なものとしては Google AI Studio、NotebookLM、ChatGPT、Microsoft Copilot、Claude Pro 等がある。機密情報を扱わない場合(個人の日常の範囲、趣味の範囲等で使用する場合は Google AI Studio や NotebookLM がよいと思うが、安全性や信頼性に課題がある場合(職場等)では Chat GPT や Microsoft Copilot の使用を推奨する。また、無料版で品質や精度に問題がある

場合は課金するという選択肢もあるし、AI エンジニアを擁する企業に相談するという方法もある。
(課金する場合は Claude Pro 等を薦めたい) また、各生成 AI の主な機能や特徴は以下のとおりである。

- ・Google AI Studio : 開発者向けのコンソールであるが、Google の生成 AI である Gemini 有償版でしか使用できない機能が無償で使用できる。
- ・NotebookLM : 長文の要約を得意とし、質問の回答を生成する際、その根拠を添えてくれる。
- ・Chat GPT : 使いやすい。データ保護に関するオプション機能がある。
- ・Microsoft Copilot : Chat GPT と同じ AI を使用している。教育機関のライセンスの場合、データが保護される。WEB 検索や、画像生成ができる。

<生成 AI 使用のポイント>

- ・機能や情報が予告なく更新されていることが多いため、最新のバージョンを確認して利用する。
- ・具体的かつ明確・簡潔な指示を出す。(要件、対象や出力形式、目的、意図、期待等を提示する等)
- ・生成 AI の特性を踏まえ、後続する文章を促すことや対話の流れを意識する。
- ・過去の指示(プロンプト)をコピーする、過去の生成物を見本として添える等して活用する。
- ・気軽に使う。(相談、セミナー中のメモ代わり等)

<生成 AI の活用例紹介>

- ・小テスト、ループリック、シラバス、告知・通知文書の作成、参考文献一覧の変換等

<生成 AI 導入事例>

- ・東京大学 : 2023 年 4 月に生成 AI ポリシーを公開し、同年、学内向けに生成 AI サービスを提供しはじめた。現在は Microsoft Copilot 組織版(有償)の導入を検討しているようだ。
- ・東北大学 : 2023 年 3 月に生成 AI ポリシーを公表し、大学 HP に大学特有の知識が入った生成 AI チャットボットを導入している。
- ・横浜国立大学: ChatGPT とのやりとりを題材とした記述式の試験問題を作成したり、生成 AI を活用した授業づくりを学生に提案させることで、学生に「可能性」と「限界」を体感させる取り組みを行っている。

<今後の展望>

これからは既存の「AI チャット」に代わり、より知性と利便性の高い「AI エージェント」が普及すると考えられる。だが明確な指示が必要であるということや、リスク面に注意が必要という点は、おそらく変わらないだろう。

4. 質疑応答

質問1: 大学において生成 AI をどのように活用し、今後活用させていけばよいのか。

回答1: 研修等で生成 AI に触れる機会を設ける等し、まずは全員が使用する機会を作ることが大切だと考える。

質問2: 以前翻訳した文書と似た形で、新しい文書を翻訳させるにはどのようにすればいいのか。

回答2: 翻訳したい文章の量が膨大だと途中が抜けてしまう場合もあるが、以前翻訳した文書と原文を見本として指示するとよい。

5. 参加者アンケート結果

「参加者アンケート」に掲載

以上



会場の様子

※参考資料

生成 AI 利用者のためのプロンプトガイド : <https://promptforus.com/>